

【論文】

島根原発稼働への松江市民の意識構造

上園昌武・江口貴康・関 耕平
(島根大学法文学部)

摘 要

筆者らは、2012年5月下旬から6月15日まで松江市民を対象に「島根原発についての意識調査」（質問項目65問）を行い、福島原発事故後の原発立地住民の意識構造の特徴を明らかにした。島根原発1～3号機の稼働の是非について、「稼働すべきではない」が半数以上を占め、「稼働すべき」を大きく上回った。稼働賛成者は「原発による経済効果」や「原発の安全性」への信頼が高いが、稼働反対者は、地震対策・津波対策・安全管理体制などへの不信感が強く、巨額の迷惑料を原発立地地域にばらまいたとしても、この層が原発推進や容認に安易に転ずるとは考えにくい。この点は、福島原発事故によって松江市民の原発への考え方が大きく変わったとみるべきである。この他にも、原発の賛否の立場の違いが「地元」の範囲、原発の発電コストの高さ、節電への取り組みに影響を与えていることが明らかとなった。

キーワード：原発稼働、住民、意識調査、島根原発

1. はじめに

2011年3月の福島原発事故を契機に、国民の原発に対する意識が劇的に変化している。事故前の内閣府の世論調査によると、今後の原発に関する姿勢について、「推進していく」が60%、「現状維持」が19%であったが、「廃止していく」はわずか16%という少数派であった（内閣府、2009）。しかし事故後のマスメディアの世論調査によると、今後の原子力発電所のあり方について「今すぐ廃止すべきだ」が11%、「時間をかけて減らすべきだ」が74%と脱原発支持が85%を占め、「減らす必要はない」（13%）を大きく上回った（毎日新聞、2011年8月21日）。

2012年6月に、エネルギー・環境会議は、原発稼働の是非を含めた2030年のエネルギーのあり方を示した「エネルギー・環境に関する選択肢」を公表し、国民からの意見を幅広く募った（エネルギー・環境会議、2012）。その方法として、パブリックコメント（2012年7月2日～8月12日）、全国11カ所で実施された意見聴取会（7月14日～8月4日）、討論型世論調査（8月4日～5日）が行われた。パブリックコメントでは、約8.9万人から意見応募があり、原発ゼロ支持が87%を占めた。意見聴取会では、意見表明希望者約1,600名のうち原発ゼロ支持が68%を占め、討論型世論調査では、285名の参加者のうち原発ゼロ支持が47%を占めた。このように全国の世論では、原発ゼロを求める声が強くなっている。

それでは福島原発事故を受けて、原発立地地域の住民意識はどのように変化したのだろうか。事故前に行われた原発立地地域の意識調査に関する先行研究がいくつかある。美ノ谷（1981、1982、1983、1985）は、福井県敦賀市、新潟県柏崎市、静岡県浜岡町の住民を対象に、原発の賛否、原発の貢献度、リスクへの認識などについて意識調査を行った。原発によるメリットに焦点を当てた研究として、小野ほか（2008）や加藤ほか（2007）がある。これらの研究によると、原発立地地域は原発関連の多額の交付金や税収があり、発電所の建設や運転などで雇用が生み出される経済効果があるため、原発推進の住民が多いという結果が得られている。本稿では、島根原子力発電所が立地する松江市民を対象にした島根原発に関する意識調査の結果をもとに、福島原発事故後の原発立地住民の意識構造の特徴を検討したい。

2. 意識調査の概要

筆者らは、2012年5月下旬から6月15日まで松江市民を対象に「島根原発についての意識調査」を行った。実施時期の原発に関する社会情勢として、福島原発被災地での除染作業が遅々として進まない問題など原発事故の惨状が報道されていた。また、6月8日に野田首相が関西電力大飯原発3・4号機の再稼働を政治判断で認める記者会見を行い、その理由として、安全対策が万全なことや関西電力管内の電力供給不足があげられた。

調査は、選挙人名簿による無作為抽出方法で行われ、抽出された松江市民2,000名に対して5月下旬に調査票を郵送し、回収数が1,296名であった。そのうち、宛先不明や転居などの無効数が21名あり、回収率は65.49%（ $=1296 \div 1979$ ）であった。回答者の基本属性については、性別は、男性588名（46.3%）、女性682名（53.7%）であった。回答者の年齢の中間値は57歳であった。質問は選択式で65問あり、最後に自由記述がある（質問票と単純集計の回答は後掲の資料を参照）。質問内容は、島根原発の稼働への賛否、安全対策への信頼、経済効果の認知、原発への不安、節電などの取り組み状況などで構成されている。

3. 島根原発の稼働への意識とその要因

3-1 島根原発の概要

島根原発は1号機（定格電気出力42万kW、1974年稼働）と2号機（82万kW、1989年稼働）、3号機（137万kW、建設中）を有する（表1）。1号機は2010年11月に運転停止し、2号機は2012年1月に運転停止して以来、両機ともに再稼働の見込みが立っていない。1号機は福島第一原発と同じ沸騰水型原子炉Mark Iタイプであり、2号機はMark I改良型である。3号機は、改良型沸騰水型軽水炉で国内最大規模である。

松江市は、全国で唯一の原発立地県庁所在地である。島根原発30キロ圏には、松江市、雲南市、安来市、出雲市、鳥取県米子市、境港市があり、地域全体で約46万人の人口を抱えている。中国電力は、島根県と松江市との間で「島根原子力発電所周辺地域住民の安全確保等に関する協定（安全協定）」を締結してきたが、福島原発事故後に島根原発30キロ圏に立地する出雲市などと新たな安全協定を締結している。

表1 島根原子力発電所の概要

	島根1号機	島根2号機	島根3号機
炉型	沸騰水型原子炉 (BWR、マークI型)	沸騰水型原子炉 (BWR、マークI改良型)	改良型沸騰水型軽水炉 (ABWR)
定格電気出力	46.0万kW	82.0万kW	137.3万kW
運転開始	1974年3月29日	1989年2月10日	—
主契約者	日立	日立	日立
建設費	395億円	3,047億円	4,240億円

(出所) 原子力資料情報室 (2012)、p.148を加筆修正。

3-2 島根原発の稼働への賛否

島根原発1～3号機を稼働すべきかについて質問した(図1)。1号機について、稼働すべきが15% (「そう思う」6%、「ややそう思う」9%) であるのに対して、稼働すべきではないが64% (「そう思わない」43%、「あまりそう思わない」21%) と稼働反対が約三分の二を占めた【Q.2】。その要因として、調査時に政府は原発稼働期間を40年と表明しており(2012年6月20日に成立した原子力規制委員会設置法で規定)、1号機がまもなく稼働後40年を迎えることが影響したと推察される。

2号機について、稼働すべきが29% (「そう思う」12%、「ややそう思う」17%) なのに対して、稼働すべきではないが46% (「そう思わない」28%、「あまりそう思わない」18%) となり【Q.3】、1号機に比べると稼働反対がやや低くなったものの、ほぼ半数が稼働反対となっている。3号機については、稼働すべきが32% (「そう思う」17%、「ややそう思う」15%) なのに対して、稼働すべきではないが48% (「そう思わない」32%、「あまりそう思わない」16%) となり【Q.4】、2号機の回答結果とほぼ同じ傾向である。その背景については、次項以降で検討する。

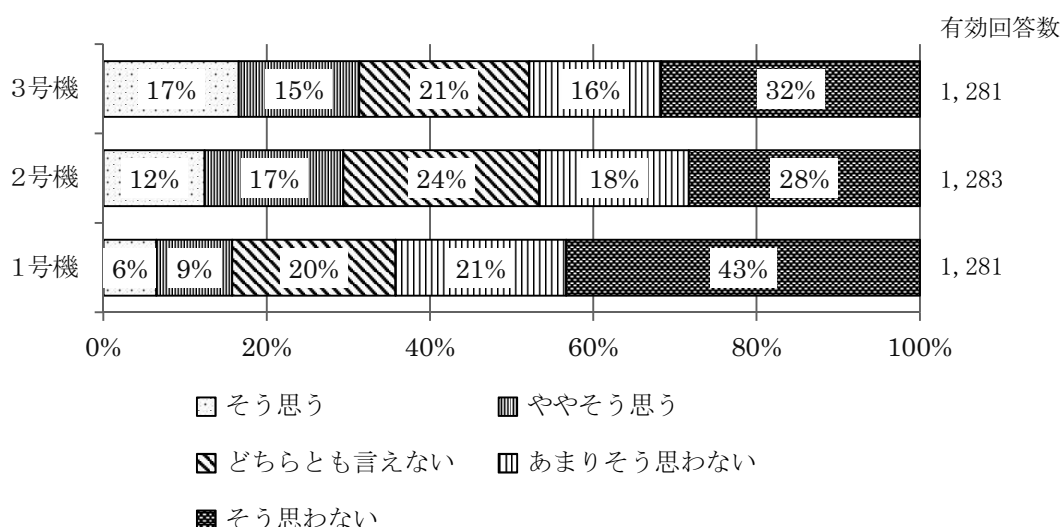


図1 島根原発(1～3号機)を稼働すべきか【Q.2～4】

3-3 島根原発3号機稼働への賛成意見者の意識構造

ここでは、今後稼働の是非が大きな争点となるであろう島根原発3号機を中心に検討していく。島根原発3号機稼働への賛成者は、原発による経済効果、原発の安全性への信頼の高さなど原発自体に肯定的な考えが影響していると推察される。

まず、島根原発の経済効果に関する問いでは、「島根原発は地域経済に貢献している」【Q.6】と考えている人ほど3号機を稼働すべきと答えている（表2）。「大いに貢献している」の回答者（272名）のうち68%が3号機を稼働すべきと答えていることから、原発と地域経済との関係を重視していることが明確である。島根原発による交付金や寄付金などの財政的な効果【Q.7】や地元の雇用への貢献【Q.8】でも、同様の回答の傾向が見られる。ただし、交付金や寄付金などの効果については、他の2つの経済効果に比べると実感がやや乏しい結果が示された。

次に、島根原発の安全性に信頼度が高い人の8割は3号機を稼働すべきと答え【Q.1】、地震対策【Q.20】、津波対策【Q.21】、安全運転管理【Q.22】でも信頼度が高い人ほど3号機を稼働すべきと回答する傾向が明確に表れている（表3）。原発全般の安全性についても日頃から信頼している【Q.24】（表4）。こうした原発への信頼性が高いことが前提となって、島根原発が中国地方の電力供給に必要であり【Q.9】、日本にも原発が必要【Q.23】と考える傾向が強くなっていると推察される。

表2 島根3号機の稼働と島根原発の地域経済への貢献

		Q4島根原発3号機を稼働すべきか					合計	
		そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	割合	回答数
Q6.島根原発は地域経済に貢献しているか	大いに貢献している	47.1%	20.6%	13.2%	6.6%	12.5%	100.0%	272
	ある程度貢献している	13.0%	18.5%	26.0%	18.1%	24.5%	100.0%	547
	どちらとも言えない	5.1%	7.2%	22.5%	25.4%	39.8%	100.0%	236
	あまり貢献していない	1.2%	7.4%	18.4%	16.0%	57.1%	100.0%	163
	まったく貢献していない	1.6%	4.8%	4.8%	6.3%	82.5%	100.0%	63
Q7.島根原発の交付金・寄付金など財政的な効果を感じるか	大いに感じる	46.2%	17.3%	13.3%	8.7%	14.5%	100.0%	173
	ある程度感じる	16.0%	20.2%	19.7%	18.4%	25.7%	100.0%	381
	どちらとも言えない	11.7%	14.5%	28.3%	17.2%	28.3%	100.0%	145
	あまり感じない	8.1%	9.7%	26.9%	20.4%	35.0%	100.0%	309
	全く感じない	10.7%	10.7%	15.0%	12.0%	51.7%	100.0%	234
Q8.島根原発は地元の雇用に関与しているか	大いに役立っている	45.3%	18.9%	14.7%	5.8%	15.3%	100.0%	190
	ある程度役立っている	16.6%	17.2%	21.8%	18.9%	25.6%	100.0%	583
	どちらとも言えない	6.7%	12.5%	23.3%	17.9%	39.6%	100.0%	240
	あまり役立っていない	4.5%	8.0%	24.4%	18.8%	44.3%	100.0%	176
	まったく役立っていない	1.8%	5.5%	9.1%	7.3%	76.4%	100.0%	55

島根原発稼働への松江市民の意識構造

表3 島根3号機の稼働と島根原発の安全性への信頼度

		Q4島根原発3号機を稼働すべきか					合計	
		そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	割合	回答数
Q1.島根原発の安全性を信頼しているか	大いに信頼している	84.4%	3.1%	6.3%	0.0%	6.3%	100.0%	214
	ある程度信頼している	38.0%	26.2%	20.3%	8.0%	7.5%	100.0%	190
	どちらとも言えない	9.5%	18.3%	37.2%	19.2%	15.8%	100.0%	266
	あまり信頼していない	3.0%	7.2%	13.5%	28.7%	47.7%	100.0%	207
	まったく信頼していない	0.6%	0.6%	5.5%	3.6%	89.7%	100.0%	406
Q20.島根原発の地震対策は十分か	そう思う	71.7%	2.2%	8.7%	2.2%	15.2%	100.0%	46
	ややそう思う	58.9%	21.1%	11.1%	4.4%	4.4%	100.0%	90
	どちらとも言えない	17.9%	23.5%	33.2%	11.9%	13.5%	100.0%	379
	あまりそう思わない	10.3%	16.1%	19.6%	28.7%	25.2%	100.0%	341
Q21.島根原発の津波対策は十分か	そう思わない	4.4%	4.7%	13.8%	13.5%	63.6%	100.0%	385
	そう思う	70.8%	8.3%	8.3%	4.2%	8.3%	100.0%	48
	ややそう思う	58.9%	16.7%	6.7%	12.2%	5.6%	100.0%	90
	どちらとも言えない	18.6%	22.7%	32.2%	11.4%	15.1%	100.0%	370
Q22.島根原発の運転ミスを防ぐ管理体制は十分か	あまりそう思わない	9.8%	14.2%	22.8%	28.2%	25.0%	100.0%	316
	そう思わない	4.8%	7.7%	13.9%	13.7%	59.9%	100.0%	416
	そう思う	66.7%	14.8%	14.8%	0.0%	3.7%	100.0%	27
	ややそう思う	53.6%	16.5%	13.4%	5.2%	11.3%	100.0%	97
	どちらとも言えない	18.7%	20.8%	28.0%	15.9%	16.6%	100.0%	471
	あまりそう思わない	10.2%	14.4%	22.0%	23.0%	30.5%	100.0%	305
	そう思わない	5.0%	6.2%	12.6%	15.0%	61.2%	100.0%	340

表4 島根原発3号機の稼働の賛否と原発全般への考え

		Q4島根原発3号機を稼働すべきか					合計	
		そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	割合	回答数
Q9.島根原発は中国地方の電力供給に必要か	必要である	53.6%	20.8%	13.2%	5.2%	1.8%	100.0%	250
	どちらかと言えば必要	15.2%	26.3%	31.2%	14.9%	12.5%	100.0%	369
	どちらとも言えない	4.8%	6.9%	26.6%	25.7%	36.1%	100.0%	335
	どちらかと言えば不要	1.3%	6.5%	13.0%	26.0%	53.2%	100.0%	154
	不要である	0.0%	0.7%	2.2%	5.9%	91.2%	100.0%	136
Q23.原発は日本に必要か	必要である	66.3%	15.1%	12.0%	4.8%	1.8%	100.0%	166
	どちらかと言えば必要	23.1%	32.3%	26.6%	9.2%	8.9%	100.0%	316
	どちらとも言えない	3.7%	11.7%	34.4%	23.5%	26.6%	100.0%	349
	どちらかと言えば不要	4.8%	6.3%	12.6%	31.9%	44.4%	100.0%	207
Q24.日本の原発について日頃どのように感じているか	必要である	0.0%	0.5%	4.4%	7.8%	87.3%	100.0%	204
	安心である	79.5%	2.6%	10.3%	5.1%	2.6%	100.0%	39
	なんとなく安心である	50.9%	25.4%	13.0%	5.3%	5.3%	100.0%	169
	どちらとも言えない	20.1%	25.1%	33.2%	11.3%	10.2%	100.0%	283
Q40.科学や技術の恩恵のためにはリスクを受け入れるべきか	なんとなく不安である	5.6%	14.0%	24.4%	27.3%	28.7%	100.0%	414
	不安である	2.4%	2.1%	11.6%	13.4%	70.4%	100.0%	335
	そう思う	38.8%	7.4%	20.7%	8.3%	24.8%	100.0%	121
	ややそう思う	24.0%	21.2%	18.9%	15.3%	20.6%	100.0%	359
	どちらとも言えない	10.0%	16.1%	27.9%	17.8%	28.1%	100.0%	409
	あまりそう思わない	8.8%	13.4%	17.6%	20.8%	39.4%	100.0%	216
	そう思わない	9.6%	5.7%	11.5%	11.5%	61.8%	100.0%	157

3-4 島根原発3号機稼働への反対意見者の意識構造

島根原発3号機稼働への反対者は、地震対策・津波対策・安全管理体制などへの不信感が強く、原発のリスクを懸念しており、原発自体に否定的な考えが影響していると推察される。

「原発安全神話」を否定して、安全な生活を切望している様子がうかがえる。

まず、島根原発の地震対策に関する問いでは【Q.20】、「地震対策は十分ではない」と考えている人ほど3号機を稼働すべきではないと答えている（表3）。津波対策【Q.21】や運転ミスを防ぐ管理体制【Q.22】でも、同様の回答の傾向がみられる。

島根原発の経済効果については、一定の貢献を認めつつも、3号機の稼働を反対しており【Q.22～24】（表2）、従来型の巨額の迷惑料（交付金や税収、匿名寄付）をばらまいたとしても、この層が原発推進や容認に安易に転ずるとは考えにくい。この点は、福島原発事故で原発への考え方が大きく変わったとみるべきである。

4. 意識調査における特徴的な結果

以下では、今回の意識調査で特徴的な結果を4点指摘する。

4-1 島根原発の「地元」の範囲

福島原発事故前には原発事故の重点的な防災対策が求められたのは8～10キロ圏（EPZ）の地域であったが、事故後には30キロ圏（UPZ）に拡大された。このことによって、原発立地で補助金等の経済便益を受け取る自治体とリスクだけを被る自治体が生まれ、原発稼働の判断や同意が必要な「地元」の範囲が大きな問題となっている。

島根原発の場合、従来の「松江市と島根県」とどめるべきという回答者は131名（10.7%）と少ないが、30キロ圏の米子・境港市までを含めるべきが879名（70.0%）と多く、松江市民の多くが県境を越えた30キロ圏を「地元」にすべきと考えている【Q.32】（図2）。さらに、100キロ圏の鳥取・岡山・広島を含めるべきが262名（20.8%）を占めている。「地元」の範囲を現状程度にとどめるべきと考える人は、島根原発の必要性があると考える人が多い。一方、「地元」の範囲を30キロ圏（鳥取を含む）や100キロ圏に広げるべきと考えている人は、島根原発の廃炉を求めている人が多く、原発災害の被害の甚大さと広域性を認識していることが影響していると推察される。

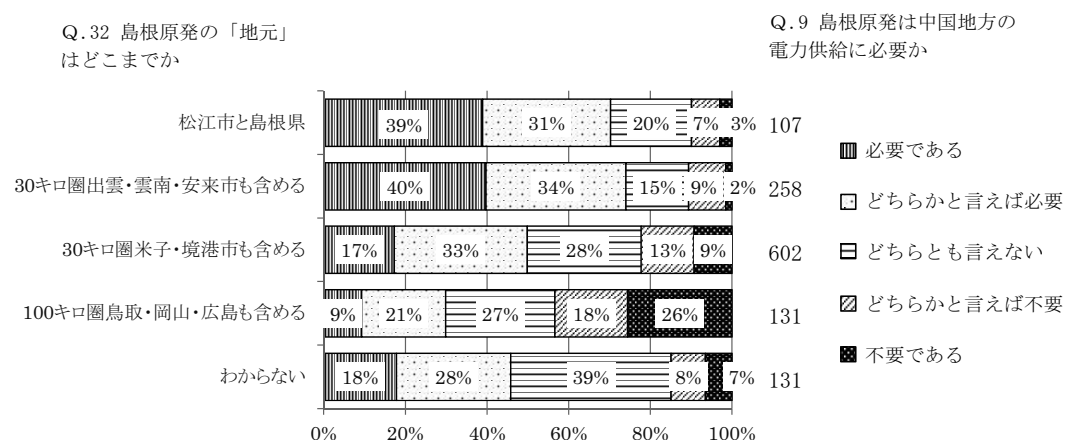


図2 島根原発の「地元」の範囲と島根原発の必要性（有効回答数：1229）

4-2 原発の発電コストは高い

原発推進の根拠として、原発の発電コストは他の電源よりも安いという「原発安価神話」が広く宣伝されてきた。しかし、福島原発事故によって甚大な被害が発生し、被災者への巨額の補償費用、除染作業や廃炉の費用などが少なくとも数十兆円以上必要となることが明らかとなった。その結果、原発の発電コストが高いと考える人は過半数を占め、決して安い電源ではないと認識されつつある【Q.25】。ただし、「どちらとも言えない」という回答者も全体の三分の一を占めており、発電コストの内訳がわからず、情報をあまりよく知らないために判断できなかったと推察される。

原発の発電コストが高いと考える人は、今後の島根原発について「やめるべき」や「減らすべき」と回答する傾向があり、逆に発電コストが安いと考える人は、島根原発を「現状程度にとどめる」と回答する傾向がある（図3）。

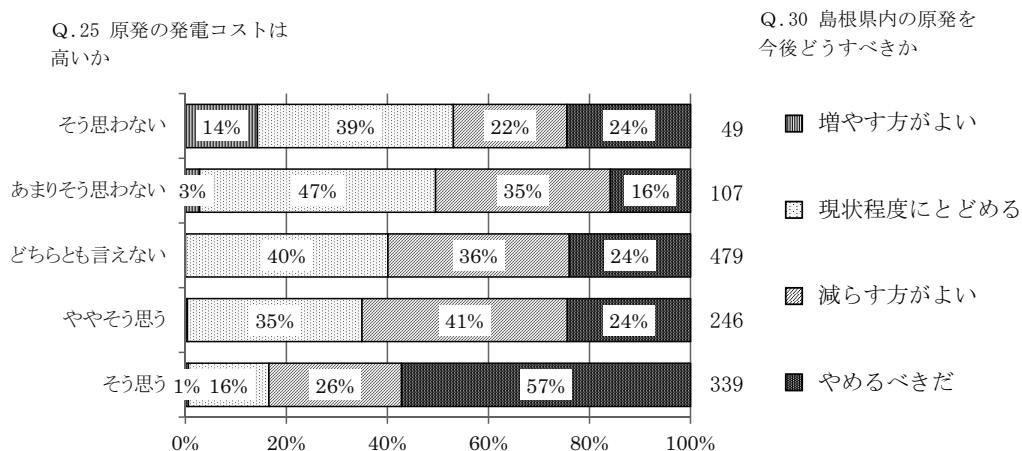


図3 原発の発電コストと島根原発のあり方（有効回答数：1229）

4-3 工夫すれば電力は足りる

政府は、2011年夏の消費ピーク時に東京電力と東北電力管内で電力不足に陥る可能性があるとして発表し、2012年冬と2012年夏にも関西電力や九州電力などで電力不足が叫ばれた。そのため、節電要請や節電令が出され、消費ピーク時の節電や省エネ設備投資に取り組んだ結果、余裕をもって停電を回避することができた。こうした情報をもとに、多くの人は日本社会が電力を浪費していると気づき【Q.33】、工夫次第では全原発を停止しても電力不足を回避できると考えている【Q.29】。原発利用の賛成者は、全原発を停止すると工夫しても電力不足になると考え、逆に原発利用の反対者は工夫すれば電力が足りると考えていることが鮮明になった（図4）。

Q.29 全原発停止でも工夫すれば電力は足りる

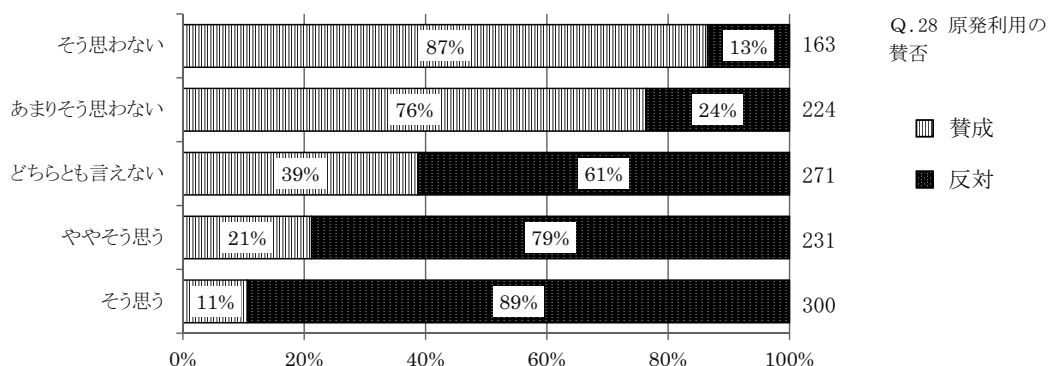


図4 原発の賛否と電力不足への考え方（有効回答数：1189）

4-4 若年世代は原発賛成、中高年世代は原発反対

今回の調査では、年齢の若い人ほど原発利用の賛成が多く、年齢が高い人ほど反対が多くなる傾向が顕著であった。20歳代では67%が原発賛成だったのに対して、70歳代以上では66%が原発反対となった（図5）。その要因として、若年世代は、社会経験が乏しいために節電や省エネの取り組み方を十分に知らないことや、物心がついたことからモノがあふれる生活を前提とした価値観が影響しているのかもしれない。一方、中高年世代は、石油ショックやそれ以前の暮らしの体験から、エネルギーの無駄や省エネの方法を知っていることや、人生経験から様々なリスクの恐ろしさを積み重ねてきたことなどが影響していると推察される。

Q.56 年齢層

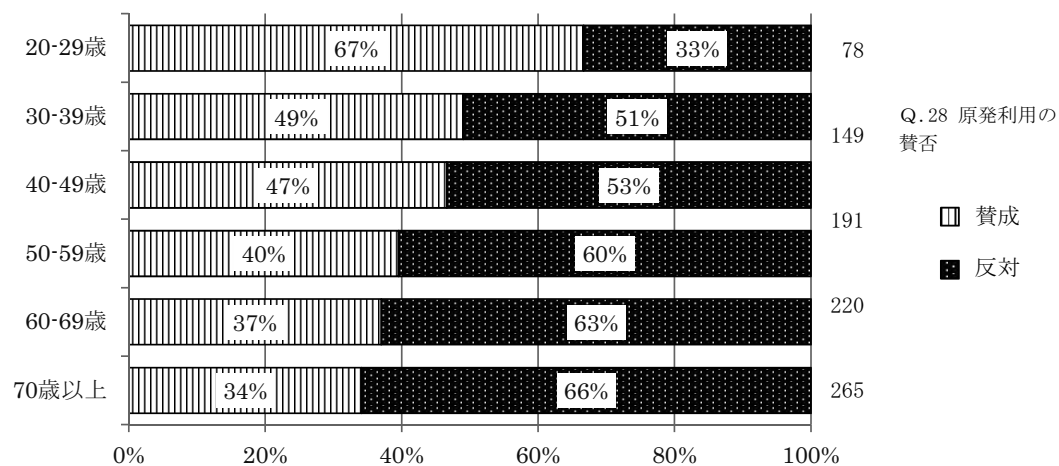


図5 若い世代は原発推進、中高年齢層は原発反対（有効回答数：1243）

5. おわりに―調査結果からの示唆

本調査で明らかなおとりに、2012年6月上旬の時点で、島根原発の稼働に対して否定的な人が半数以上を占めていた。とくに、島根3号機の稼働への反対者が賛成者を上回ったことが大きな特徴である。最新鋭の原発といえども、福島原発事故の原因が究明されておらず、甚大な被害が目の当たりになった現実を考えれば、当然の結果と言えるだろう。

その一方で、原発安全神話や安価神話を信じ、島根原発の現状維持や3号機の稼働を認めるべきと考える人も少なくない。政府や電力会社は、原発の情報を丁寧に説明すれば「安心」につながると主張してきた。当然のことであるが、原発のリスクを説明し続ければ、「危険」が「安全」に変質するものではない。リスクコミュニケーションのあり方が改めて問われているといえる。

3号機稼働の是非の判断は何を根拠に考え出されたのだろうか。原発やエネルギー問題に関心がなく、情報がほとんど得られていない場合があるだろう。しかし、多くの人は新聞やテレビのニュース、インターネット情報などに基づいて判断していると考えられる。新聞やニュースでは、福島原発事故直後には、原発災害の悲惨さ、東京電力や政府のずさんな対応が盛んに報道されてきたが、今年に入って、原発再稼働を後押しする報道が目立っている。その例として、原発停止が続くと電気代が高騰するとか、節電は苦行のような印象が植え付けられている。しかし、原発をなくすことで、安全な暮らしが実現でき、省エネや再生可能エネルギーの普及によって経済が活性化するなどのプラスの効果も多い。新聞やニュース報道は重要な情報源であり、あらためてマスメディアの質と中立性が問われている。

また、島根原発を誘致すれば、地域社会が豊かになり、人口増加が見込まれるなどと言われたが、40年経ってみると、人口は減少し、地場産業の農漁業が衰退し、地域社会が発展したとは決して言えない。島根県や松江市は、島根原発1号機が建設されて以降の功罪を客観的に分析した総括をまとめ、県民や市民に対して今後の島根原発のあり方についての判断材料を提供することが求められる。

参考文献

- エネルギー・環境会議（2012）〈<http://www.npu.go.jp/policy/policy09/archive01.html>〉
- 小野恵・川本義海（2008）「原子力立地地域における生活環境の評価」『福井大学地域環境研究教育センター研究紀要：日本海地域の自然と環境』15号、pp.115-122
- 加藤尊秋・八田昌久・西川雅史・松本史朗（2007）「電源地域における経済的・財政的利点の「補償」としての認知：柏崎刈羽原子力発電所についての社会調査」『日本原子力学会和文論文誌』第6巻第4号、pp.404-420
- 原子力資料情報室（2012）『原子力市民年鑑2011-12』七つ森書館
- 内閣府（2009）『原子力に関する特別世論調査』（2009年10月）
- 美ノ谷和成（1981）「原発情報と原発意識に関する実証的研究 [I]：福井県敦賀市における統計調査を中心として」『立正大学文学部論叢』70号、pp.29-77
- 美ノ谷和成（1982）「原発情報と原発意識に関する実証的研究 [III]：新潟県柏崎市における統計的調査を中心として」『立正大学人文科学研究所年報』20号、pp.61-91

美ノ谷和成（1983）「原発情報と原発意識に関する実証的研究〔Ⅱ〕：福井県敦賀市における統計調査を中心として」『立正大学文学部論叢』75号、pp.1-69

美ノ谷和成（1985）「原発意識の形成・変容と原発情報の受容：静岡県浜岡町における標本調査を中心として」『立正大学文学部研究紀要』1号、pp.133-166

付記

本研究は、島根大学法文学部山陰研究プロジェクト「島根原子力発電所に関わる地域社会への影響」（2011～12年度、研究代表：上園昌武）の助成を受けた研究成果の一部である。

資料 質問票と単純集計の回答

ご回答は、とくに断りがなければ、選択肢番号を1つだけ選んでマルをつけてください。

Q1. まず、島根原発についてお聞きします。
あなたは、島根原発の安全性をどの程度信頼していますか。〈有効回答数：1285〉

- | | 回答数 | 割合 |
|----------------|-----|-------|
| 1. 大いに信頼している | 30 | 2.3% |
| 2. ある程度信頼している | 376 | 29.3% |
| 3. どちらとも言えない | 351 | 27.3% |
| 4. あまり信頼していない | 363 | 28.2% |
| 5. まったく信頼していない | 165 | 12.8% |

Q2. あなたは、島根原発1号機（1974年〈昭和49年〉稼働）は再稼働すべきだと思いますか。〈有効回答数：1281〉

- | | | |
|--------------|-----|-------|
| 1. そう思う | 83 | 6.5% |
| 2. ややそう思う | 119 | 9.3% |
| 3. どちらとも言えない | 256 | 20.0% |
| 4. あまりそう思わない | 268 | 20.9% |
| 5. そう思わない | 555 | 43.3% |

Q3. あなたは、島根原発2号機（1989年〈平成元年〉稼働）は再稼働すべきだと思いますか。〈有効回答数：1283〉

- | | | |
|--------------|-----|-------|
| 1. そう思う | 159 | 12.4% |
| 2. ややそう思う | 218 | 17.0% |
| 3. どちらとも言えない | 308 | 24.0% |
| 4. あまりそう思わない | 235 | 18.3% |
| 5. そう思わない | 363 | 28.3% |

Q4. あなたは、島根原発3号機（建設中、未稼働）は稼働すべきだと思いますか。
〈有効回答数：1281〉

- | | | |
|--------------|-----|-------|
| 1. そう思う | 212 | 16.5% |
| 2. ややそう思う | 189 | 14.8% |
| 3. どちらとも言えない | 267 | 20.8% |
| 4. あまりそう思わない | 207 | 16.2% |
| 5. そう思わない | 406 | 31.7% |

Q5. あなたは、島根原発事故を想定して、県が策定中の避難計画案に期待しますか。〈有効回答数：1275〉

- | | | |
|--------------|-----|-------|
| 1. 期待する | 171 | 13.4% |
| 2. やや期待する | 215 | 16.9% |
| 3. どちらとも言えない | 240 | 18.8% |
| 4. あまり期待しない | 393 | 30.8% |

- | | | |
|----------|-----|-------|
| 5. 期待しない | 256 | 20.1% |
|----------|-----|-------|

Q6. あなたは、島根原発は地域経済に貢献していると思いますか。〈有効回答数：1280〉

- | | | |
|----------------|-----|-------|
| 1. 大いに貢献している | 271 | 21.2% |
| 2. ある程度貢献している | 547 | 42.7% |
| 3. どちらとも言えない | 236 | 18.4% |
| 4. あまり貢献していない | 163 | 12.7% |
| 5. まったく貢献していない | 63 | 4.9% |

Q7. あなたは、島根原発があることで交付金、寄付金など財政的な効果を感じますか。〈有効回答数：1246〉

- | | | |
|--------------|-----|-------|
| 1. 大いに感じる | 174 | 14.0% |
| 2. ある程度感じる | 379 | 30.4% |
| 3. どちらとも言えない | 147 | 11.8% |
| 4. あまり感じない | 309 | 24.8% |
| 5. まったく感じない | 237 | 19.0% |

Q8. あなたは、島根原発は地元の雇用に役立っていると思いますか。〈有効回答数：1249〉

- | | | |
|----------------|-----|-------|
| 1. 大いに役立っている | 190 | 15.2% |
| 2. ある程度役立っている | 584 | 46.8% |
| 3. どちらとも言えない | 241 | 19.3% |
| 4. あまり役立っていない | 179 | 14.3% |
| 5. まったく役立っていない | 55 | 4.4% |

Q9. あなたは、島根原発は中国地方の電力供給に必要だと思いますか。〈有効回答数：1249〉

- | | | |
|------------------|-----|-------|
| 1. 必要である | 251 | 20.1% |
| 2. どちらかといえば必要である | 371 | 29.7% |
| 3. どちらとも言えない | 336 | 26.9% |
| 4. どちらかといえば不要である | 155 | 12.4% |
| 5. 不要である | 136 | 10.9% |

Q10. あなたは、島根原発があることで不安を感じることがありますか。〈有効回答数：1255〉

- | | | |
|----------------|-----|-------|
| 1. 大いに不安を感じる | 461 | 36.7% |
| 2. やや不安を感じる | 502 | 40.0% |
| 3. どちらとも言えない | 109 | 8.7% |
| 4. あまり不安を感じない | 160 | 12.7% |
| 5. まったく不安を感じない | 23 | 1.8% |

Q11. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、避難生活に対する不安を持っていますか。〈有効回答数：1255〉

- | | | |
|----------------|-----|-------|
| 1. 大いに不安を持っている | 784 | 62.5% |
| 2. やや不安を持っている | 302 | 24.1% |
| 3. どちらとも言えない | 90 | 7.2% |

4. あまり不安を持っていない (71、5.7%)
5. まったく不安を持っていない (8、0.6%)

Q12. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、事故に関する情報をすぐに入手できると思いますか。〈有効回答数：1255〉

1. そう思う (54、4.3%)
2. ややそう思う (120、9.6%)
3. どちらとも言えない (243、19.4%)
4. あまりそう思わない (443、35.3%)
5. そう思わない (395、31.5%)

Q13. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、どのように行動するか決めていますか。〈有効回答数：1250〉

1. はっきり決めている (56、4.5%)
2. だいたい決めている (212、17.0%)
3. どちらとも言えない (141、11.3%)
4. あまり決めていない (497、39.8%)
5. まったく決めていない (344、27.5%)

Q14. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、仕事を失うことに不安を感じますか。〈有効回答数：1219〉

1. 大いに不安を感じる (539、44.2%)
2. やや不安を感じる (249、20.4%)
3. どちらとも言えない (187、15.3%)
4. あまり不安を感じない (153、12.6%)
5. まったく不安を感じない (91、7.5%)

Q15. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、離れて暮らす家族や親せきなどに頼ることができませんか。〈有効回答数：1248〉

1. 頼ることができる (170、13.6%)
2. ある程度頼ることができる (266、21.3%)
3. どちらとも言えない (180、14.4%)
4. あまり頼ることができない (252、20.2%)
5. 頼ることができない (380、30.4%)

Q16. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、仲の良い近所の人と離れ離れになることに不安を感じますか。〈有効回答数：1249〉

1. 大いに不安を感じる (282、22.6%)
2. やや不安を感じる (367、29.4%)
3. どちらとも言えない (192、15.4%)
4. あまり不安を感じない (298、23.9%)
5. まったく不安を感じない (110、8.8%)

Q17. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、食べるものが放射能に汚染されることについて不安を感じますか。〈有効回答数：1249〉

1. 大いに不安を感じる (861、68.9%)
2. やや不安を感じる (263、21.1%)
3. どちらとも言えない (72、5.8%)
4. あまり不安を感じない (44、3.5%)
5. まったく不安を感じない (9、0.7%)

Q18. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、現在住む場所に帰れないことに不安を感じますか。〈有効回答数：1250〉

1. 大いに不安を感じる (762、61.0%)
2. やや不安を感じる (248、19.8%)
3. どちらとも言えない (112、9.0%)
4. あまり不安を感じない (92、7.4%)
5. まったく不安を感じない (36、2.9%)

Q19. あなたは、島根原発で深刻な事故が発生した場合、自分や家族の身体が放射能汚染の影響を受けることに対して不安を感じますか。〈有効回答数：1254〉

1. 大いに不安を感じる (924、73.7%)
2. やや不安を感じる (232、18.5%)
3. どちらとも言えない (58、4.6%)
4. あまり不安を感じない (35、2.8%)
5. まったく不安を感じない (5、0.4%)

Q20. あなたは、島根原発の地震対策は十分だと思いますか。〈有効回答数：1246〉

1. そう思う (47、3.8%)
2. ややそう思う (89、7.1%)
3. どちらとも言えない (380、30.5%)
4. あまりそう思わない (344、27.6%)
5. そう思わない (386、31.0%)

Q21. あなたは、島根原発の津波対策は十分だと思いますか。〈有効回答数：1245〉

1. そう思う (49、3.9%)
2. ややそう思う (89、7.1%)
3. どちらとも言えない (372、29.9%)
4. あまりそう思わない (318、25.5%)
5. そう思わない (417、33.5%)

Q22. あなたは、島根原発の運転ミスを防ぐ管理体制は十分だと思いますか。〈有効回答数：1245〉

1. そう思う (27、2.2%)
2. ややそう思う (95、7.6%)
3. どちらとも言えない (477、38.3%)

- 4. あまりそう思わない (306, 24.6%)
- 5. そう思わない (340, 27.3%)

Q23. あなたは、原子力発電所が日本にとって必要だと思いますか。<有効回答数：1248>

- 1. 必要である (165, 13.2%)
- 2. どちらかといえば必要である (320, 25.6%)
- 3. どちらとも言えない (351, 28.1%)
- 4. どちらかといえば不要である (208, 16.7%)
- 5. 不要である (204, 16.3%)

Q24. あなたは、日本の原子力発電について日頃どのように感じていますか。<有効回答数：1246>

- 1. 安心である (39, 3.1%)
- 2. なんとなく安心である (170, 13.6%)
- 3. どちらとも言えない (286, 23.0%)
- 4. なんとなく不安である (415, 33.3%)
- 5. 不安である (336, 27.0%)

Q25. あなたは、原子力発電のコストは高いと思いますか。<有効回答数：1226>

- 1. そう思う (338, 27.6%)
- 2. ややそう思う (246, 20.1%)
- 3. どちらとも言えない (485, 39.6%)
- 4. あまりそう思わない (108, 8.8%)
- 5. そう思わない (49, 4.0%)

Q26. あなたは、政府が原発稼働期限とした40年を超えても、原発の運転を続けてよいと思いますか。<有効回答数：1241>

- 1. そう思う (29, 2.3%)
- 2. ややそう思う (36, 2.9%)
- 3. どちらとも言えない (247, 19.9%)
- 4. あまりそう思わない (258, 20.8%)
- 5. そう思わない (671, 54.1%)

Q27. あなたは、日本の産業界の技術力は高いと思いますか。<有効回答数：1244>

- 1. そう思う (517, 41.6%)
- 2. ややそう思う (450, 36.2%)
- 3. どちらとも言えない (176, 14.1%)
- 4. あまりそう思わない (70, 5.6%)
- 5. そう思わない (31, 2.5%)

Q28. あなたは、原子力発電を利用することに賛成ですか。反対ですか。<有効回答数：1188>

- 1. 賛成 (497, 41.8%)
- 2. 反対 (691, 58.2%)

Q29. あなたは、国内の全ての原発を停止しても、工夫すれば電力は足りると思いますか。<有効回答数：1249>

- 1. そう思う (304, 24.3%)
- 2. ややそう思う (239, 19.1%)
- 3. どちらとも言えない (300, 24.0%)
- 4. あまりそう思わない (240, 19.2%)
- 5. そう思わない (166, 13.3%)

Q30. あなたは、県内の原子力発電所は今後どうしたらよいと思いますか。<有効回答数：1238>

- 1. 増やす方がよい (13, 1.1%)
- 2. 現状程度にとどめる (406, 32.8%)
- 3. 減らす方がよい (417, 33.7%)
- 4. やめるべきだ (401, 32.4%)

Q31. あなたは、原子力発電を段階的に減らし、将来はやめることに賛成ですか。反対ですか。<有効回答数：1213>

- 1. 賛成 (1024, 84.4%)
- 2. 反対 (189, 15.6%)

Q32. 野田内閣は、停止中の原発の運転再開に地元の同意を求めています。島根原発の場合、「地元」の範囲をどこまでにするべきだと思いますか。<有効回答数：1263>

- 1. 松江市と島根県 (132, 10.5%)
- 2. 県内で30キロ圏内の出雲・雲南・安来市も含める (137, 10.8%)
- 3. 県内の30キロ圏に加え、県を越えて30キロ圏に入る鳥取県西部の米子・境港市まで含める (620, 49.1%)
- 4. 100キロ圏内に入る鳥取・岡山・広島まで含める (263, 20.8%)
- 5. わからない (111, 8.8%)

Q33. あなたは、日本社会は電力をむだづかいしていると思いますか。<有効回答数：1279>

- 1. そう思う (539, 42.1%)
- 2. ややそう思う (461, 36.0%)
- 3. どちらとも言えない (195, 15.2%)
- 4. あまりそう思わない (62, 4.8%)
- 5. そう思わない (22, 1.7%)

Q34. あなたは、「自分は積極的に節電に取り組んでいる」と思いますか。<有効回答数：1281>

- 1. そう思う (258, 20.1%)

- 2. ややそう思う (521, 40.7%)
- 3. どちらとも言えない (285, 22.2%)
- 4. あまりそう思わない (180, 14.1%)
- 5. そう思わない (37, 2.9%)

Q35. あなたは、エネルギーや環境の問題は科学や技術の発展によって必ず解決される、と思いますか。
 <有効回答数：1280>

- 1. そう思う (291, 22.7%)
- 2. ややそう思う (366, 28.6%)
- 3. どちらとも言えない (337, 26.3%)
- 4. あまりそう思わない (203, 15.9%)
- 5. そう思わない (83, 6.5%)

Q36. あなたは、環境問題や差別など社会問題について考えるのは面倒だ、と思いますか。
 <有効回答数：1281>

- 1. そう思う (25, 2.0%)
- 2. ややそう思う (108, 8.4%)
- 3. どちらとも言えない (299, 23.3%)
- 4. あまりそう思わない (449, 35.1%)
- 5. そう思わない (400, 31.2%)

Q37. あなたは、科学や技術の研究開発の方向性は、内容をよく知る専門家が決めるのがよい、と思いますか。
 <有効回答数：1273>

- 1. そう思う (304, 23.9%)
- 2. ややそう思う (301, 23.6%)
- 3. どちらとも言えない (369, 29.0%)
- 4. あまりそう思わない (194, 15.2%)
- 5. そう思わない (105, 8.2%)

Q38. あなたは、科学や技術の危険性を示す情報のほとんどは一般市民には隠されている、と思いますか。
 <有効回答数：1272>

- 1. そう思う (431, 33.9%)
- 2. ややそう思う (541, 42.5%)
- 3. どちらとも言えない (211, 16.6%)
- 4. あまりそう思わない (70, 5.5%)
- 5. そう思わない (19, 1.5%)

Q39. あなたは、社会的に重要な決定は住民投票を通じて決めるべきだ、と思いますか。
 <有効回答数：1272>

- 1. そう思う (498, 39.2%)

- 2. ややそう思う (349, 27.4%)
- 3. どちらとも言えない (292, 23.0%)
- 4. あまりそう思わない (87, 6.8%)
- 5. そう思わない (46, 3.6%)

Q40. あなたは、科学や技術の恩恵を受けるには、ある程度リスクを受け入れるべきだ、と思いますか。
 <有効回答数：1265>

- 1. そう思う (121, 9.6%)
- 2. ややそう思う (362, 28.6%)
- 3. どちらとも言えない (411, 32.5%)
- 4. あまりそう思わない (213, 16.8%)
- 5. そう思わない (158, 12.5%)

Q41. あなたは、生活水準を下げてでも、エネルギーの消費量を減らしたい、と思いますか。
 <有効回答数：1270>

- 1. そう思う (191, 15.0%)
- 2. ややそう思う (351, 27.6%)
- 3. どちらとも言えない (398, 31.3%)
- 4. あまりそう思わない (220, 17.3%)
- 5. そう思わない (110, 8.7%)

Q42. あなたは、今の世代の生活よりも将来の世代の生活環境を重視すべきだ、と思いますか。
 <有効回答数：1270>

- 1. そう思う (355, 28.0%)
- 2. ややそう思う (432, 34.0%)
- 3. どちらとも言えない (340, 26.8%)
- 4. あまりそう思わない (95, 7.5%)
- 5. そう思わない (48, 3.8%)

Q43. あなたは、ふだん新聞をどのくらい時間をかけて読んでいますか。
 <有効回答数：1279>

- 1. かなり時間をかけて読む(135, 10.6%)
- 2. まあまあ時間をかけて読む(536, 41.9%)
- 3. どちらとも言えない(129, 10.1%)
- 4. あまり時間をかけて読まない(401, 31.4%)
- 5. 新聞は読まない(78, 6.1%)

Q44. あなたは、テレビでニュースをどのくらい見えていますか。
 <有効回答数：1282>

- 1. よく見る (842, 65.7%)
- 2. ときどき見る (318, 24.8%)
- 3. どちらとも言えない (39, 3.0%)
- 4. あまり見ない (72, 5.6%)
- 5. まったく見ない (11, 0.9%)

Q45. あなたは、インターネットをどのくらい利用していますか。〈有効回答数：1273〉

1. よく利用する (327、25.7%)
2. ときどき利用する (282、22.2%)
3. どちらとも言えない (36、2.8%)
4. あまり利用しない (220、17.3%)
5. まったく利用しない (408、32.1%)

Q46. あなたは、日頃、なんとなく不安を感じることはありませんか。〈有効回答数：1278〉

1. よくある (238、18.6%)
2. ときどきある (564、44.1%)
3. どちらとも言えない (226、17.7%)
4. あまりない (226、17.7%)
5. まったくない (24、1.9%)

Q47. あなたは、自分が困ったとき、自分の家族は頼りになると感じますか。〈有効回答数：1281〉

1. そう思う (659、51.4%)
2. ややそう思う (362、28.3%)
3. どちらとも言えない (154、12.0%)
4. あまりそう思わない (76、5.9%)
5. そう思わない (30、2.3%)

Q48. あなたは、自分が住む地域は、全体的にまともな地域だと思いますか。〈有効回答数：1281〉

1. そう思う (117、9.1%)
2. ややそう思う (430、33.6%)
3. どちらとも言えない (446、34.8%)
4. あまりそう思わない (200、15.6%)
5. そう思わない (88、6.9%)

Q49. あなたは、自分が住む地域の町内会・自治会は、災害などの緊急時に頼りになると感じますか。〈有効回答数：1280〉

1. そう思う (97、7.6%)
2. ややそう思う (294、23.0%)
3. どちらとも言えない (417、32.6%)
4. あまりそう思わない (325、25.4%)
5. そう思わない (147、11.5%)

Q50. あなたは、近所に住む人たちは、災害などの緊急時に頼りになると感じますか。〈有効回答数：1281〉

1. そう思う (123、9.6%)
2. ややそう思う (308、24.0%)
3. どちらとも言えない (395、30.8%)
4. あまりそう思わない (307、24.0%)

5. そう思わない (148、11.6%)

Q51. あなたは、災害などの緊急時に、自分だけなら、自力で避難できると思いますか。〈有効回答数：1280〉

1. そう思う (176、13.8%)
2. ややそう思う (250、19.5%)
3. どちらとも言えない (338、26.4%)
4. あまりそう思わない (297、23.2%)
5. そう思わない (219、17.1%)

Q52. あなたは、いま住んでいる地域に対して愛着を感じていますか。〈有効回答数：1277〉

1. 強く感じている (372、29.1%)
2. やや感じている (544、42.6%)
3. どちらとも言えない (211、16.5%)
4. あまり感じていない (124、9.7%)
5. まったく感じていない (26、2.0%)

Q53. あなたは、いま住んでいる地域は以前よりも活気がなくなってきている、と思いますか。〈有効回答数：1280〉

1. 強くそう思う (205、16.0%)
2. ややそう思う (397、31.0%)
3. どちらとも言えない (300、23.4%)
4. あまりそう思わない (294、23.0%)
5. まったくそう思わない (84、6.6%)

Q54. あなたは、いま、どの政党を支持していますか。〈有効回答数：1242〉

1. 民主党 (110、8.9%)
2. 自民党 (265、21.3%)
3. 公明党 (36、2.9%)
4. 共産党 (16、1.3%)
5. 社民党 (9、0.7%)
6. みんなの党 (19、1.5%)
7. 国民新党 (1、0.1%)
8. たちあがれ日本 (4、0.3%)
9. その他の政党 (9、0.7%)
10. 支持政党なし (773、62.2%)

◆最後に、今回の調査結果を統計的に処理するために、いくつかおうかがいします。

Q55. あなたは、男性ですか。女性ですか。〈有効回答数：1270〉

1. 男性(588、46.3%)
2. 女性(682、53.7%)

Q56. あなたは、いま何歳ですか。
 <有効回答数：1258>

年齢（ 中間値 57 歳）

Q57. あなたの同居家族はあなたを含めて何人ですか。
 <有効回答数：1260>

（ 中間値 3 ）人

Q58. 一緒に暮らしているご家族の方（あなたを含む）すべてに○をつけてください。お1人で暮らしている方は9に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 0歳～2歳の子供 | (84) |
| 2. 3歳～小学生にならない子供 | (79) |
| 3. 小学生 | (159) |
| 4. 中学生 | (99) |
| 5. 15歳～39歳の方（中学生は除く） | (582) |
| 6. 40歳～64歳の方 | (828) |
| 7. 65歳～74歳の方 | (358) |
| 8. 75歳以上の方 | (373) |
| 9. 一緒に暮らしている者はいない | (141) |

Q59. あなたは、現在お住まいの地域（公民館区）に何年住んでいますか。
 <有効回答数：1242>

現在の地域に住んで（通算 中間値 26 ）年め

Q60. あなたの最終学歴を教えてください。
 （在学中の方は、いま通っている学校を選んでください）
 <有効回答数：1251>

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1. 小・中学校（または旧制高等小学校） | (177, 14.1%) |
| 2. 高校（または旧制中学、高等女学校など） | (567, 45.3%) |
| 3. 専門学校 | (117, 9.4%) |
| 4. 短大・高専 | (102, 8.2%) |
| 5. 大学 | (254, 20.3%) |
| 6. 大学院 | (27, 2.2%) |
| 7. その他（記入欄→） | (7, 0.5%) |

Q61. あなたのお住まいは、次のうちどれですか。
 <有効回答数：1259>

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 持ち家（一戸建て） | (973, 77.3%) |
| 2. 持ち家（マンション） | (50, 4.0%) |
| 3. 公営の賃貸住宅 | (58, 4.6%) |
| 4. 民間の借家 | (36, 2.9%) |
| 5. 民間の賃貸マンション・アパート | (112, 8.9%) |
| 6. 社宅・公務員宿舎など | (22, 1.7%) |
| 7. その他 | (8, 0.6%) |

**Q62. あなたの生活水準は、次の中ではどこに入ると
 思いますか。**
 <有効回答数：1238>

- | | |
|--------|--------------|
| 1. 上の上 | (8, 0.6%) |
| 2. 上の下 | (29, 2.3%) |
| 3. 中の上 | (167, 13.5%) |
| 4. 中の中 | (528, 42.6%) |
| 5. 中の下 | (336, 27.1%) |
| 6. 下の上 | (120, 9.7%) |
| 7. 下の下 | (50, 4.0%) |

Q63. あなたの おもなご職業は次のどれですか。
 ○を1つつけてください。<有効回答数：1240>

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 自営業（農林漁業） | (54, 4.4%) |
| 2. 自営業（農林漁業以外） | (97, 7.8%) |
| 3. 民間企業 常勤 | (309, 24.9%) |
| 4. 民間企業 パート・アルバイト | (159, 12.8%) |
| 5. 公務員 常勤 | (57, 4.6%) |
| 6. 公務員 臨時・パート等 | (19, 1.5%) |
| 7. 団体職員 常勤 | (38, 3.1%) |
| 8. 団体職員 臨時・パート等 | (22, 1.8%) |
| 9. 大学生・短大生・専門学校生・院生 | (15, 1.2%) |
| 10. 専業主婦（主夫） | (153, 12.3%) |
| 11. 無職 | (287, 23.1%) |
| 12. その他 | (30, 2.4%) |

Q64. 上で2～8に○をつけた方におたずねします。
 あなたの仕事の内容は次のどれですか。
 <有効回答数：699>

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1. 事務職 | (132, 18.9%) |
| 2. 販売・サービス従事者 | (196, 28.0%) |
| 3. 保安業従事者 | (11, 1.6%) |
| 4. 生産・製造業従事者 | (65, 9.3%) |
| 5. 通信業従事者 | (7, 1.0%) |
| 6. 運輸業従事者 | (15, 2.1%) |
| 7. 建設業従事者 | (45, 6.4%) |
| 8. 管理職・役員 | (54, 7.7%) |
| 9. 専門・技術職(教員・技師・医師・看護師等) | (132, 18.9%) |
| 10. その他 | (42, 6.0%) |

Q65. あなたがお住まいの地域は次のどこですか。

下記のうち、あてはまる番号1つに○をつけてください。

<有効回答数：1255>

1	秋鹿	17	11	雑賀	19	21	乃木	112
2	朝酌	15	12	島根	28	22	東出雲	83
3	朝日	21	13	城西	60	23	古江	22
4	生馬	18	14	城東	42	24	法吉	81
5	忌部	15	15	城北	45	25	本庄	18
6	大野	10	16	白瀉	18	26	美保関	35
7	大庭	60	17	宍道	59	27	持田	25
8	鹿島	36	18	玉湯	36	28	八雲	47
9	川津	89	19	竹矢	34	29	八束	28
10	古志原	69	20	津田	79	30	その他	34

Consciousness structure of the Matsue residents to Shimane Nuclear Power Plant operation

UEZONO Masatake, EGUCHI Takayasu, SEKI Kohei

(Faculty of Law & Literature, Shimane University)

[Abstract]

The authors performed “attitude survey about the Shimane Nuclear Power Plant” (65 question items) for Matsue residents from the end of May, 2012 to June 15. And it became clear a characteristic of the consciousness structure of the nuclear power generation location inhabitants after the Fukushima nuclear plant accident.

In the question item of the right or wrong of the operation of the Shimane Nuclear Power Plant 1-3, “it should not operate” occupied higher than half and exceeded “should operate”.

The operation supporters trust the economic effect and safety for the nuclear power generation, on the other hand, the operation opponents distrust earthquake measures, tsunami measures, safety management system strongly. Even if government and Electricity Company pay huge nuisance charges for Nuclear power generation location area, it is hard to think that residents on this position may change their mind into nuclear power generation promotion and acceptance easily. We should consider that many people changed a big way of thinking to nuclear power generation after the Fukushima nuclear plant accident. In addition, it became clear that the difference in viewpoint of the right or wrong of the nuclear power generation affected the range of “Nuclear power generation location area”, the high generation cost of the nuclear power generation, the action to energy consumption savings.

Key words : Nuclear power plant operation, Residents, Attitude survey,
Shimane nuclear power plant